

トガリネズミラヴァー
六田晴洋の

私たちの ご近所さん

VOL. 19

「したたかで美しい
カワガラス」



この2つの写真に写っている鳥、実は同じ種類で同じ個体です。名前はカワガラス。泳ぎが得意で、水中で虫や小魚などを捕まえます。普段は地味な色ですが、それが水中では一変、鮮やかな青色に輝きます。これは全身を覆った薄い空気の膜が、空や水の色を反射しているからです。今回の記事はこの写真を撮影した時のエピソードを紹介します。

サケ狙いから想定外の展開

だいたい秋は毎年そうなのですが、この時もサケの産卵シーズンが撮れず苦しんでいました。たくさんいるサケの中から、その日に産卵しそうなメスを探してその瞬間を待つのですが、産卵の時間が近づくにつれて周りのオスがソワソワしはじめ、オス同士のケンカが勃発。やがてメ

スは終わらないケンカにうんざりしてどこかへ行ってしまう。これがお馴染みのパターンです。この日も朝から6時間以上待ったのに、ケンカのせいでメスは産卵の準備をやめてしまいました。今から別のメスを探しても産卵するのは夜になってしまいうし、クマの心配もあるので諦めるしかありません。「はあ、今日も失敗か・・・」と果然と

していると、川に沈めたままにしていたカメラにカワガラスがちよこんと止まっていることに気付きました。

カワガラスはカメラから水中を見下ろしては潜り、またカメラの上に戻ってきます。よく見ると、カメラの前に転がっているサケの卵を食べています。サケのオスが激しくケンカをした

水中カメラに止まるカワガラス

サケの卵をくわえるカワガラス

せいで、すでに川底に埋められていた卵が掘り返されていたのです。きつとこのカワガラスは、サケがケンカをするとご馳走にありつけることを知っているのでしょう。

野生の生き物は本当にしたたかで賢い。撮影対象をカワガラスに切り替えて夢中になっている時ふと顔を上げると、すぐ近くまでシマリスが興味津々な様子で私を見に来っていました。9割は上手いかわい生き物の撮影、こうして勝手に励まされながらやっています。

PROFILE

六田晴洋

ろくたはるひろ

1986年生まれ。

2021年に白糠町へ移住。大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。<https://rokutaharuhiro.com>

